

# 市政そここが知りたい

## 一般質問に29人登壇

### 都市ガス災害と 本市の危機管理は

星名 悟

**Q** 公営から民間へ委譲された市のガス事業は過去の教訓をもとに最善の管理体制が整っているとありますが、移管後の安全管理はどのように実施されていますか。

**A** 北海道北見市のガス漏れ事故原因は古いガス管（経年管）とされるねずみ錆鉄管が破断しガス漏れが発生したもので、供給されている都市ガスは4Bという種類で、中毒を起こす危険性のある一酸化炭素を含んだ製造ガスでした。現在鴻巣市域で供給されているガスは13Aという天然ガスで、一酸化炭素は含まれていません。安全管理体制は、ガス漏れ通報など緊急時に備え二四時間受付・出動体制をとります。供給施設の漏えい検査など安全点検は法令を遵守し適切に行っています。また、経年管の敷設替えは毎年一五〇〇〜二〇〇メートルを計画的に実施しているとのこと、極めて高い安全管理だと考えます。

### 災害ハザードマップ 整備の対応は

岡崎 清敏

**Q** 最近の異常気象が原因の一つといわれている自然災害が多発しているが、市として「災害ハザードマップ」の整備が必要と思われるが対応はどうか。

**A** 平成十七年の水防法改正により、鴻巣市域は一級河川である荒川・利根川の浸水想定区域となっていることから、「洪水ハザードマップ」の作成・公表が義務付けられました。

「鴻巣市防災マップ」の内容は、「防災の基礎知識や避難所病院、市の施設や、自動対外式除細動器（AED）などを地図上に記載した防災マップ」と荒川及び利根川の増水により堤防が決壊した際の浸水想定区域及び水深を示した洪水ハザードマップ、「住宅等の耐震化の促進や地震に対する備えを喚起するため、地震時の揺れやすさを示す地震ハザードマップ」で構成した、全ページカラー刷りの家庭用保存版の防災マップとして全戸配布する予定です。

### 吹上中学校の耐震強度 対策への取り組みは

町田 信隆

**Q** 吹上中学校校舎の耐震強度不足が指摘され、対策としてプレハブ校舎建設予定です。概要と使用期間について伺います。

**A** プレハブ校舎は二階建て、普通教室十二室、全教室に冷暖房を設備します。使用期間は四年八月月となっています。

**Q** 旧校舎の解体及び新校舎の建設予定はありますか。

**A** 生徒の安全を考慮して早期解体が妥当と考えます。また、新校舎については、早い時期に建て替えを目指していきます。

**Q** 観光資源としての元荒川桜並木保存について伺います。

**A** 桜並木は全体で五〇五本あり、市街地の中で生活に密着した後世に残したい貴重な財産だと認識しています。

**Q** 桜が散った後の害虫駆除対策としてEM菌散布の有効例がありますか、適用可能ですか。

**A** 実施する場合は菌の培養から始めることになり、今の体制で取り組み可能か検討します。

### 将来都市像実現は グラウンドゴルフ場増設を

坂本 晃

**Q** 将来都市像を実現させるために、花にかかわる事業は今後どのように展開されていくのか。

**A** 花を最大限活用し、市の個性や魅力を高め活性化していく施策を市民と協働で展開していく。花のオアシスフェアやポピー・ハッピースクエア、フラワーフエスティバル、コスモスフェスティバルなどのイベントを開催しています。また、今年の六月一日〜三日までさいたま新都心で行われる、ジャパンフラワーフェスティバル二〇〇七に積極的に参加して、花のまちこのすそをPRします。花を通じて地域コミュニティづくりの促進や市民のコミュニティ意識の高揚を図る事業を進めます。

**Q** 川里中央の土地改良事業で生み出された非農用地に、グラウンドゴルフ場を作れないのか。

**A** 将来において、かわさとグラウンドゴルフ場の再整備や規模拡大等の声が高まれば、関係部署との調整も必要と考えます。

## 高齢者福祉センターと吹中の安全対策は

長嶋 貞造

**Q** 戦後の廃墟から日本経済の発展に寄与した高齢者・年金受給世代の方々に感謝を込めて、いかによりよい高齢者福祉行政ができるかを考えるときです。

市の高齢者福祉センターの安全安心対策はどうか伺います。

**A** 安全安心対策は、三館とも建設当時の基準により設置し、建物の構造、利用者の便、防災等に配慮しています。その後、玄関にスロープを、廊下や玄関の上がり、便所などに手すりを設け、また洋式トイレを設置するなど、高齢者が安心して利用できるよう改善に努めています。

**Q** 吹上中学校の第二次耐震診断の結果、コンクリート強度の低い数値を受け、どのような対策をしていますか。

**A** 予期していない事態であり、吹上中学校では十九年一月九日、地震を想定した避難訓練を行って安全対策に努めました。また現在、軽量鉄骨二階建てのプレハブ仮校舎を建設中です。

## 学童保育室の子供にも校舎内トイレの使用を

村上 愛子

**Q** 四月より小谷小学校に作られる学童保育室は校舎内の普通教室を使う初めてのケースです。

しかし教室の廊下側の出入り口を閉じてしまうので学童の子供は校舎内のトイレを使わせてもらえず、一度教室から外に出て

体育館の外トイレを使う計画です。防犯上の問題と、学校に

いるよりも長時間を学童で過ごすことの多い低学年の子供のトイレ問題はトイレへの距離も含め

重要です。管理優先とも思える今回の計画を見直してください。

**A** この一般質問通告後に学校と協議し、先生のいる時間帯は校舎内のトイレを使用できることになりました。

**Q** 社会福祉協議会は市と協力して地域福祉を進める役割を担っています。市長の会長職の兼任・職員の事務局長派遣をやめ

民間の人材の起用で地域福祉の更なる推進をはかる時期です。

**A** 両職について、県内の動向を見ながら検討していきます。

## 小谷地区の産廃処理と職員教育は

福田 悟

**Q** 小谷地区の産廃放置から環境改善を図るまでの経過、及び今後の取り組みは。

**A** 持込み業者に対し撤去作業等の確約書を提出させ、監視・指導しましたが、放置したまま

連絡不能となりました。地域の要望に沿うよう県とも幾度となく協議を重ね、放置事案改善事

業を県内一号として適用、環境改善を図りました。産廃投棄防

止の観点から、市全域で見廻りを実施し、再発防止に努めます。

**Q** 合併後窓口の対応が良かったとの声を聞くが、より素晴らしい職員育成の教育計画は。

**A** 「市民の皆様はお客様である」を基本に明るくさわやかな対応を実践しています。職員教

育は、新規採用時に二回の接遇研修や一〇年ほど経過した職員

には意識改革等の研修を行っています。さらに、顧客満足度の

観点から新たな内容で研修を実施し、市民の皆様が満足いた

けるよう取り組んでいきます。

## 障がい者が安心して生活できる制度の導入を

長嶋 元種

**Q** 私は成年後見人制度について平成十二年三月議会で取り上げた経緯があります。民法第八

四三条では成年後見人の制度が規定され、自治体がこの制度を

導入することにより、認知症・知的障害・精神障害等で判断能

力が不十分な方の生活を支援し、財産管理を行なうことができ

ます。知的障害等の方々が安心して生活できるように制度面から

サポートすることが必要です。成年後見人制度を導入し、福祉

の向上を図っていただきたい。

**A** 十二年三月議会で議員から同様の質問をいただきました。

身寄りがない等の理由で申立てをする親族がない高齢者や障

がい者の方の相談に対応し、法定後見人制度により認知症等の

方を保護・支援するため、十九年度予算に、市長が審判申立を

行なう際に必要な費用等を計上しました。現在「鴻巣市成年後見制度利用支援実施要綱」の制定を準備検討しています。

## 小中学校の普通教室にクーラーの設置を

羽鳥 健

**Q** 地球温暖化が深刻な問題となっており、過去一〇年間で地球の平均気温は約〇・七度上

昇し、特に東京都心部は約三度も上昇しています。夏季、県内

では都心と同程度かそれ以上の暑さです。このような状況下で、

市は平成十八年度までに全小中学校の各教室に扇風機を四台ずつ

設置しました。しかし、さいたま市では二十一年夏までに市立

の小中学校の全普通教室にエアコンを設置することです。

市ではクーラー設置を図る考えがあるのかお聞きします。

**A** 文部科学省は平成十五年度からの公立学校冷房化方針として、当面新増築や大規模改造の

補助対象に普通教室の空調設備を加え、設置率を高めることと

しています。現在県下の普通教室冷房設置率は五・九パーセン

トです。クーラーを設置したとしても夏季休業日を除くと約一

カ月間の活用であり、当分の間は設置する計画はありません。

学校施設利用の有料化計画は

大塚 佳之

**Q** 学校施設の開放事業は、スポーツ振興・健康増進・青少年の健全育成等を目的とし、多くの市民団体が利用しています。現在の利用状況や今後の課題について伺います。

**A** 体育施設の組織・要請開放は、平成十七年度実績で小中学校二六校において校庭九万八〇〇〇人、体育館十六万人の利用状況です。利用団体の自主的な管理により、使用後の整備・清掃が行われています。

学校体育施設も、受益者負担の原則から、公共施設使用料見直し基本計画の対象であり、現在検討中です。使用料や今後のスケジュール等は、あらゆる角度から慎重に検討し、見直し案の策定を進めていきます。さらには、団体の構成やそれぞれの活動状況を踏まえて、使用料の減免や免除措置を含め、市民の皆さん、利用者の皆さんに充分な理解をいただけるよう、最善の努力をしていきます。

鴻巣駅前再開発地区に通勤通学者の駐輪場を

堀田 三樹夫

**Q** 現在、通勤通学者用市営駐輪場は四力所に散在し、合計収容台数は一八五〇台です。再開発地区内に、八二二台収容の自動車駐輪場を建設中ですが、本事業が中心市街地活性化と、市民生活の利便性向上のためであるなら、駐輪場こそ整備すべきです。民間事業を圧迫しない方針という理屈は、駐輪場問題への無策を民間業者に責任転嫁するもので認められません。

**A** 平成十五年の事業計画には、一四〇〇台の地下駐輪場がありました。また、十六年に計画変更されましたが、事業費・建築期間・費用対効果等の観点から削除されました。自転車を利用する通勤通学者には、仮設駐輪場が何度も移転しご不便をかけていると思います。建設中の自動車駐輪場は今からの用途変更は不可能ですが、二十年度を目途に四力所の駐輪場を閉鎖統合し、センター方式による有料自転車駐輪場を設置したいと考えています。

設置したいと考えています。

生活・通学道路の安全確保は

中島 清

**Q** 笠原十字路は県道行田蓮田線、県道加須鴻巣線が交わる交差点で、右折車線がないので、朝夕は四方へ三百メートル以上の渋滞が発生するのが常です。

**A** 行田蓮田線は、小中学校の通学路に指定されていることから、交通渋滞解消対策と歩道設置による安全対策が必要となつていきます。加須鴻巣線の笠原十字路から笠原大橋までの歩道がない区間についても、交通事情からすると、通行者の安全確保のために歩道の整備が必要な箇所であると思っております。

北本県土整備事務所では、交差点整備と歩道整備を計画しており、平成十九年度に路線・用地測量、道路詳細設計を行う計画として、予算要求をしているとのことです。

入札落札後契約辞退における業者への処分は

岡崎 高良

**Q** 指名業者が落札後、都合により契約を辞退した場合ペナルティを科すことができます。地方自治法では「落札者が契約を締結しない場合は事後の入札に二年間参加させないことができる」とされています。本市では過去に事例があったようですが、処分内容を示してください。

**A** 一例目は平成十二年頃と聞いていますが、資料がなく、指名停止等の詳細について確かなことは分かりません。二例目については、平成十七年度に業者から辞退届けが提出されましたので、地方自治法施行令の規定に基づき、六カ月間の入札に参加させないとした通告書を本人宛に交付してペナルティを科しています。この施行令にある「二年間一般競争入札に参加させないことができる」旨の規定により、指名委員会で審議して「入札に参加させない期間」を決めました。なお、指名停止の処分はしていません。

また、杉並区や川崎市、大分県中津市などにおきましても、首長の在任期間（期数）に関する条例を制定していますが、その内容を見ると、連続、あるいは、通算で三期を超えて在任しないように努める」というものです。

市長の多選自粛条例制定の考えは

岡田 恒雄

**Q** 行政のトップは幅広い権限を有する地位にあることから、その地位に一人の者が、長期にわたり就くことにより生じる恐れのある弊害を防止するため、市長の在任期間を定める条例への考えについて伺います。

**A** 多選を自粛する条例を制定している事例については、市長である私も聞き及んでいます。埼玉県においては、平成十六年八月に「埼玉県知事の在任期間に関する条例」を制定しています。

また、杉並区や川崎市、大分県中津市などにおきましても、首長の在任期間（期数）に関する条例を制定していますが、その内容を見ると、連続、あるいは、通算で三期を超えて在任しないように努める」というものです。首長の多選自粛については、今後、市民の皆さんや、議員の皆さんのご意見を十分に伺っていく考えです。

## 鴻巣市花と音楽の館 かわさを観光施設に

青木 勝也

**Q** 鴻巣市観光施設として認定する考えは。また、近隣自治体との相互観光マップを作成し、PRすべきでは。

**A** 市の観光施設認定等の基準はありません。また、自治体間の相互観光マップ作成の計画はありませんが、市の観光マップには既に掲載しており、観光協会のホームページにも積極的に掲載して情報を発信し、多くの方に周知したいと考えます。

**Q** 完成後、フラワー号を当地から発着すべきでは。

**A** 国土交通省運輸局の許可が必要であり、コミュニティバスのあり方について、総合的な見直しの中で検討していきます。

**Q** 施設裏側の休耕田の活用を図る考えは。

**A** 施設の設置目的達成のための事業を推進することが重要であり、まちづくり交付金事業の評価期間である三年間は基礎を築く期間と考え、その評価結果を踏まえ検討したいと考えます。

## 市民プールの継続を 吹上中学校舎の早期改築を

加藤 久子

**Q** 吹上地域にあったプールは九七―三人の署名があったにもかかわらず閉園されました。その時には、鴻巣市民プールを利用してくださいとのことでした。

それもつかの間、市民プールも閉園する旨の報告が一月にありました。子育て環境日本一を掲げる中で、このような考えは理解できません。親子で利用できる子どもたちの唯一の施設です。閉園するべきではありません。

**A** 老朽化しており、全面改修すると三億二五〇〇万円かかります。また、利用者は一〇万人から五万人に減り、近隣に一年中利用できる施設もあることから、閉園を前提に進めています。

**Q** 五万人も利用者がいることは、少ないどころか多い利用だと理解します。他の公共施設でそのような施設はありますか。

**A** ありません。

**Q** 吹上中学校校舎は少しでも早い時期に改築すべきです。

**A** 早い時期に考えます。

## 競技大会用のテニスコート は計画変更を

斎藤 忠司

**Q** 上谷総合公園は「スポーツ空間」「憩いの空間」の双方を両立し、テニスコートは競技大会を考慮し、十二面のコートと一部夜間照明設備、観戦スペースの基本計画に基づき現在四面の工事が進められています。しかし、市長は施設方針で老朽化が著しいという理由で「市民プール」を閉園すると言っています。

上谷総合公園の施設内で「市民プール」は閉園、テニスコートは計画通り進めるのでは、行政の推進に矛盾があります。今後、整備しようとしている

テニスコート八面の計画を変更し、中止すべきと考えますが。

**A** 上谷総合公園は、野球場、サッカー場、テニスコートなどの運動施設を有し、スポーツを通じた健康増進、青少年の健全育成、コミュニティの活性化など、スポーツ振興による多方面への波及効果が期待されます。

テニスコートは計画案通り、十二面で進めたいと考えます。

## フラワー号と新路線の 乗換箇所と料金設定は

中野 昭

**Q** コミュニティバスの新路線は北本駅から鴻巣駅西口、吹上駅南口と高崎線の西側（吹上地域は南側）を来年一月からの運行計画になっています。現行のフラワー号との乗換箇所はどこになるのか。また、乗換えによる料金設定はどうなるのか。

**A** 現行のフラワー号との乗換は鴻巣駅、北鴻巣駅を想定しています。料金については、乗換券や一日乗車券等の発行を検討していきます。

**Q** 吹上地域の総合的教育施設整備、吹上駅南口線街路改良・多目的広場整備、川里地域の川里中央公園整備など七事業は未着手となっています。これら七事業は平成二十二年度以降の着手となっていますが、優先順位はどのようになっているのか。

**A** 現段階では優先順位を決めていませんが、未着手事業については、毎年策定する実施計画の中で議論していきたいと考えています。

## 吹上・鴻巣・川里の 一体化をすすめる

宮脇 則夫

**Q** 第五次鴻巣市総合振興計画の中に、総合的教育施設はどのように位置づけられているのでしょうか。

**A** 平成十九年度から二十一年度までの計画にはありません。構想として大規模であるため、建設場所、事業内容、財源計画等を含め詳細な検討が必要です。

**Q** 小学校を統廃合して、大芦小学校の敷地に施設を建設したらどうでしょうか。

**A** 興味を引く意見として、論議の参考になると思います。しかし、総合的教育施設については詳細な検討が必要です。

**Q** 新市の一体化のために、教育力のあるまちづくりが必要です。新総合振興計画の中に取り入れたらどうでしょうか。

**A** 現在は、調整検討事項を残しています。小学校の統廃合問題があるとすれば、吹上駅南口地域の全体的土地利用も含め、時間をかけてじっくり検討したいと考えます。

### 吹上地域の中学校の机と椅子を新規格に

齊藤 健児

**Q** 吹上地域の中学校で使う机と椅子の傷み具合がひどい状況です。購入して三〇年近いものもある上に、天板は落書きや傷でいっぱいです。さらに、現在の中学生の体格と大判になった教科書などに対応できない小さいサイズなので、生徒が不便を感じます。早急に新規格品に更新していくことを求めます。

**A** 鴻巣地域では教科書等のサイズがB5からA4になることで、学習生活環境に支障が生じてくることを鑑みて、教育委員会が検討した経緯があります。その結果、小学校三年生から六年生までと中学校全学年について、数年前から新規格の机と椅子の入れ替えをしました。

しかしながら、小学校一・二年生と吹上・川里地域の小中学校については未整備であることから、現状を的確に捉え授業等に支障が生じないよう早期に机と椅子の整備計画を作成し、学習環境の整備に取り組みます。

### 市民生活の実態について 市の見解は

竹田 悦子

**Q** 貧困と格差が深刻になっていますが、鴻巣も例外ではありません。二〇〇万円以下の世帯は二〇〇五年が五七パーセント、二〇〇六年は五九パーセントです。生活保護世帯は五年前の一九四世帯から四〇七世帯と増えています。子どもの数が一〇八人減っていますが、就学援助を受けている児童・生徒は三五七人から四〇二人と増えています。市民の暮らしに対する認識と市民負担の軽減を行うこと、「福祉の増進に努める」自治体としての存在意義について見解をお答えください。

**A** 社会的格差の流れがそのまま鴻巣市に当てはまるか否かは別としても、このような状況に何らかの対策を講じていくことは重要であり、今後の市政を運営していく上で、大事な視点だと認識しています。低所得者には必要な配慮をしながら施策を展開することが望ましく、一層の努力をしたいと考えます。

川里地域では、合併していることがなかったという声が大きくなっています。吹上地域からも、こんなはずではなかったという声が寄せられています。新年度予算編成も、東口再開発など大型事業をすすめる一方で、経費節減型の予算となっています。住民の暮らしを守る立場から保育料、学童保育料、国民健康保険税、介護保険料などがどのようになったのか。また、値上げをせずに元に戻す考えはありますか。

### 合併で住民の暮らしが どうなったか

根岸 貴美恵

**Q** 支所で就学援助の手続きができるよう求めます。

**A** 就学援助の手続きについては、現在窓口一本化の方針、並びに個人情報保護の立場から、教育委員会学校はつらつ課の窓口で、申請書類の配布並びに受付を行っています。

市内循環バス運行に向けてアンケート調査をもとに原案を作成中とのことですが、運行開始予定はいつになるのか。

**A** 今年度中（十八年度）に運行計画の原案作成を終了し、市民の皆様のご意見を伺うために、市民及び公共交通関係者で組織する地域公共交通会議において論議していただく予定です。その会議を踏まえ、十九年六月末ごろまでに最終案をまとめる予定です。最終的には、二十年一月の運行開始をめざしたいと考えています。

### 市内循環バス運行の 今後のスケジュールは

船田 敏子

**Q** 新たな運行経路は、北本駅乗り入れも含めどう検討しているのか伺います。

**A** 新たな運行経路は、これまで吹上地域の高崎線北側、南側、馬室地区、常光地区ルートなどを検討しました。現段階では、高崎線南側の吹上地域と馬室地区を融合したルートの計画を進めています。北本駅乗り入れも積極的に検討したいと考えます。

自主防災組織の取り組みはどのように進めているか。

**A** 突然来る大地震により広範囲にわたる大災害が発生した場合、防災関係機関の対応には限界があります。阪神・淡路大震災の被災経験からも明らかです。この大震災では自主防災組織が大きな力を発揮し、その重要性が改めて認識されました。しかし、被災経験の有無で防災意識の差が大きく、市内の組織化等が進まないのが現状です。市内の組織率は二五・九パーセントで、国や県平均組織率に遠く及びません。市では自主防災組織の育成を地域防災計画の中でも重要項目として掲げ、広報紙への掲載、防災訓練、防災講習会の開催などを行い、防災意識の更なる向上を図るとともに、組織の設立をお願いしています。また、平成十八度から「防災出前講座」を始めるなど一層の広報活動を行い、自主防災組織の組織化に重点的に取り組みます。

### 自主防災組織の 取り組みは

矢部 一夫

